

岐阜県福祉サービス第三者評価事業評価結果表

平成 31 年 4 月 1 日改正
(平成 31 年 4 月 1 日適用)

① 第三者評価機関名

特定非営利活動法人 岐阜後見センター

② 施設・事業所情報

名称：大垣市養老華園	種別：養護老人ホーム	
代表者氏名：牛場 誠	定員（利用人数）： 70 名	
所在地：大垣市牧野町 2 丁目 1 5 0 番地 1		
TEL：0584-71-4197	ホームページ： https://ogaki-fukushi.jp	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日 平成 3 年 4 月 1 日		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 大垣市社会福祉事業団		
職員数	常勤職員： 15 名	非常勤職員 名
専門職員	（専門職の名称） 名	
	施設長 1 名	
	事務員 2 名	
	相談員 3 名	
	看護師 1 名	
	介護職員 8 名	
施設・設備 の概要	（居室数）	（設備等）
	一人部屋： 72 部屋	面接室 医務室 静養室 食堂 浴室 デイホール 職員室 会議室
	二人部屋： 5 部屋	

③ 理念・基本方針（※転載）

§ 理念

- ・地域と利用者に期待されて選ばれる施設づくりに努めます。
- ・活力ある豊かな福祉社会及び人権が尊重される社会の実現を目指します。
- ・職員が安心して働ける環境に向けて積極的に取り組みます。

§ 基本方針

常に敬愛の念を持ち、ゆとりのある生活を営んでいただけるよう万全を期します。また、健全な環境のもとで入所者の意思及び人格を尊重し、ゆとりと安らぎのある施設運営を行います。

④施設・事業所の特徴的な取組（※評価機関において記入）

1. 生活支援

社会復帰の促進及び自立のために必要な指導及び訓練その他の援助を行うことにより、入所者がその有する能力に応じ、自立した日常生活を営むことができるように、入所者の身体的、精神的状態を考慮した支援計画により援助を行っている。要介護状態の方については、介護保険サービスを有効に使用して、個別の状態に合わせた支援を受けることができる。

2. 環境整備

施設内の環境美化を図り、清潔で明るい家庭的な雰囲気づくりに努め、かつ入所者の意見を充分聴き、安心・安全な施設づくりに努めている。

3. 健康管理

定期的な健康診断と入所者の高齢化、虚弱化に対応して、健康体操等、各種行事への参加を促進し、潤いのある日常生活が送れるよう援助を行っている。又、入所者の身体状況を把握し、嘱託医との連携を取り、疾病と感染症の予防・健康管理に努めている。

4. 衛生管理

安全管理委員会を基に、常に施設内の清潔と、入所者の入浴、手洗い等の身体の清潔、又、厨房設備、食器等の衛生管理に努めている。

5. 安全管理

常に入所者に危険が及ばないよう施設整備を行い、その機能を発揮するとともに入所者の安全に努めている。また、非常災害時に対応できるよう避難訓練を毎月1回実施している。

6. 地域交流

例年は、「人と人のふれあいの中で暮らす」を目指し、地域に開かれた施設とするため、入所者も地域の一員と受け止め、地域社会との交流（保育園・中・高校生との交流会や踊り・演芸ボランティアグループ等の受入れ）を積極的に図っている。又、閉じこもりがちな高齢者や自分で外出困難な高齢者を招き、盆踊り大会や交通安全教室を開催し、地域貢献の一環として交流の場を作っている。今年度は、コロナ禍の状況にあり、縮小しての実施若しくは一部中止となっている。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和2年6月1日（契約日） ～ 令和3年3月8日（評価結果確定日）
受審回数(前回の受審時期)	2回（平成26年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

養老華園は公設施設であり、市の事業団が指定管理を受けて運営する措置施設である。救護施設、軽費老人ホーム（ケアハウス）、老人福祉センター、デイサービスセンター、地域包括支援センター、在宅介護支援センターの等の施設群が入っている複合施設の一角にあり、入所者は他の施設利用者及び地域の高齢者と交流する機会がある。また、入所者の送迎バスを運行する等、外出の利便性を高めている。

職員は、入所者のエンパワメントを高める観点から、入所者の主体性を尊重し、一人ひとりの生活スタイルに応じた支援に努めている。また入所者とのコミュニケーションに心がけ、よりよい関係を築けるよう心がけるとともに、看護師を配置し、医療機関と連携しつつ、安心安全に生活していただけるよう努めている。

職員行動規範を作成し、エビデンスに基づいた行動実践に努めるとともに、様々なマニュアルを整備し、職員の支援の標準化に取り組んでいる。職員の職務分掌など組織体制ができており、入所者の支援や運営課題について職員間で検討する仕組みを持ち、職員間での情報の共有化が図られている。

利用者のアセスメントについて独自の工夫された様式があり、利用者の意向やニーズを把握し、課題を検討して個別支援計画を策定する体制ができています。今年度は、コロナ禍の影響で、行事も地域交流もままならないところがあるが、例年では、地域に開かれた施設として、とても密な交流ができており、施設開放等の地域貢献も行っている。

◇改善を求められる点

今後とも、記録その他文書のペーパーレス化やICT化を推進する等、さらなる業務の簡素化に向けた取り組みに期待したい。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今回は2回目の福祉サービス第三者評価でした。前回ご指摘いただいた点については改善に努めて取り組む事により、支援の向上に繋がっています。

今回、改善すべきと指摘された記録その他文書のペーパーレス化については昨年より少しずつ進めているところです。今後も改善に向けて取り組んでいき、評価の良かった点についても更なる資質向上に向けて取り組んでいきたいと考えています。

また、今後も複合施設の特徴を生かし、地域に開かれた施設として、さらなる地域交流や地域貢献に向けて取り組んでいきたいと思っております。

⑧第三者評価結果

別紙の「第三者評価結果」に記載している事項について公表する。